

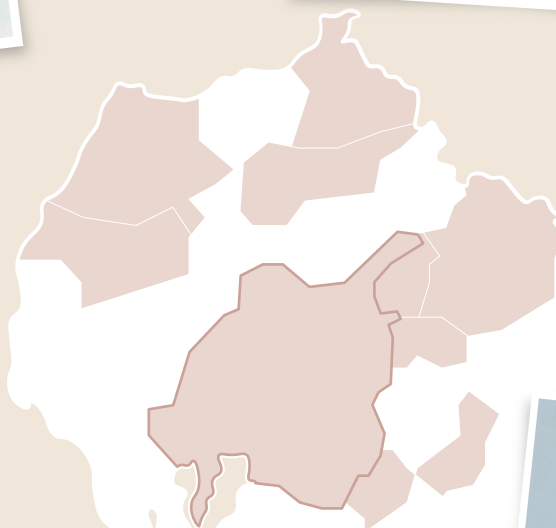
なごや生きもの一斉調査 2023

# ハエトリグモ 編

## 調査結果報告書

**実施日** 2023年9月22日(金)・23日(土)・24日(日)

**調査場所** 名古屋市内外の68地点



主催

なごビオ(なごや生物多様性保全活動協議会)



協力

公益財団法人  
名古屋市みどりの協会

監修

加藤修朗(中部蜘蛛懇談会)  
板倉泰弘(中部蜘蛛懇談会)  
萩野典子(中部蜘蛛懇談会)

# 目 次

<b>1. 概要</b> .....	<b>1</b>
1-1 目的	
1-2 実施体制	
<b>2. 実施内容</b> .....	<b>2</b>
2-1 調査日時	
2-2 調査地点	
2-3 参加団体	
2-4 参加者数	
2-5 一斉調査の流れ	
<b>3. 調査結果と考察</b> .....	<b>6</b>
3-1 調査対象	
3-2 調査方法	
3-3 調査結果	
3-4 考察	
3-5 家屋調査	
3-6 種別解説	
<b>4. 調査後のアンケート</b> .....	<b>25</b>
4-1 調査に対する満足度	
4-2 参加者について	
4-3 参加者の声 ～楽しかったこと、面白かったこと～	
<b>5. 同定資料</b> .....	<b>26</b>
<b>6. 活動アルバム</b> .....	<b>28</b>

# 1. 概要



## 1-1 目的

なごビオ（なごや生物多様性保全活動協議会）は、なごやに生息する生物及びその環境の継続的な調査を行い、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除など身近な自然の保全を实践することを目的として、平成23年5月15日に設立されました。令和6年3月末現在、70の会員（団体会員42、個人会員27および名古屋市）により構成されています。

なごビオでは、その活動の一環として、1年に1回、なごや生きもの一斉調査を実施しています。令和5年度はハエトリグモを対象として一斉調査を行いました。ハエトリグモを調査する意義は次の3つです。

- (1) ハエトリグモを身近な公園等で調べることで、地元の自然環境に興味をもってもらえる機会を提供します。また、同じ公園や緑地でも、環境が異なるところに色々な種類のハエトリグモが生息していることを知っていただき、生物多様性を知ってもらうきっかけを提供します。
- (2) ハエトリグモについて分布状況が分かります。名古屋市中で初記録の種が確認される可能性もあります。
- (3) ハエトリグモの分布状況により、生態系の豊かさを測ることができます。

## 1-2 実施体制

今回の一斉調査も、昨年に引き続き、学校や他都市の保全団体等にも調査に参加していただき、市外を含めた広範囲で実施しました。実施体制は以下のとおりです。今回は中部蜘蛛懇談会の専門家の方に監修をお願いしました。

【 主 催 】 なごビオ  
(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

【 協 力 】 公益財団法人 名古屋市みどりの協会  
名古屋市理科教育研究会、愛知県立愛知総合工科高校、名城大学附属高校、  
愛知県立一宮高校、NPO法人海上の森の会、NPO法人もりの学舎自然学校、  
二村山豊かな里山づくりの会、NPO法人みよしの自然環境を守る会、  
公益財団法人愛知県都市整備協会、岩間造園(株)、一般財団法人公園財団、  
NPO法人犬山里山学研究所、名古屋産業大学長谷川ゼミ

【 監 修 】 加藤修朗、板倉泰弘、萩野典子（中部蜘蛛懇談会）



## 2. 実施内容



### 2-1 調査日時

【日程】 令和5年9月22（金）、23日（土）、24日（日）を中心に前後約1か月間

【時間】 10:00～12:00の2時間程度

### 2-2 調査地点

名古屋市内59地点 名古屋市外9地点 計68地点（P3～4参照）

### 2-3 参加団体

今回の一斉調査はなごビオの他、以下の団体にも参加いただきました。

(1) 名古屋市理科教育研究会（名理会）

名古屋市理科教育研究会は名古屋市立の小中学校・幼稚園等に在籍する理科同好の職員で組織される研究会です。その生物部の先生方に参加をお願いし、児童や生徒とともに学校の校庭で調査していただきました。

(2) 高校の生物部等（ユース）

高校の生物部等で、なごや生物多様性センターが主催するセンターまつりに参加した高校や、なごビオの助成金の交付を受けた高校などに参加をお願いし、学校の校庭や学校近くの公園等で調査していただきました。

(3) 他都市の保全団体

名古屋市周辺の市で、なごビオと同様に自然環境保全に取り組む団体に参加をお願いし、団体が日頃活動しているフィールドで調査していただきました。

### 2-4 参加者数

今回の一斉調査には延べ614人に参加していただきました。なごビオ実施地点の参加者は339人、連携した団体からの参加者は以下のとおりです。

(1) 名理会	1校	19人
(2) ユース	3校	54人
(3) 他都市団体	8団体	202人

### 2-5 一斉調査の流れ

(1) 講習会

一斉調査では毎回、各調査地のリーダー・サブリーダーなどを対象とし、調査目的や調査方法を説明した後、専門家（講師）が調査対象について解説する講習会を実施しています。今回はフィールドでの実地演習を兼ねたリーダー講習会を以下のとおり実施しました。

【日 時】 ①9月10日（日）10:00～12:00

②9月11日（月）10:00～12:00

③9月11日（月）13:30～15:30

※リーダー（またはサブリーダー）は上記のいずれかに出席

連携団体の代表者にも受講していただきました

【場 所】 なごや生物多様性センター、上八事第三公園

【参加人数】 のべ106人

【講 師】 加藤修朗、板倉泰弘、萩野典子（中部蜘蛛懇談会）、戸田尚希（名古屋昆虫同好会）

【講習の内容】 事務局による調査方法等の説明、講師によるハエトリグモに関する講義及び  
採集・同定の実地演習

表1 調査地点一覧

【なごびオ】

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
1	千種	茶屋ヶ坂公園	石樽純子	9/22
2	千種	千種公園A	伴知幾	9/22
3	千種	千種公園B	臼井俊哉	9/24
4	千種	東山の森(へいわの森)	田畑恭子	9/24
5	千種	東山の森(くらしの森)	鬼頭洋子	9/24
6	千種	東山の森(ふれあいの森)	今尾由美子	9/22
7	千種	東山の森(いのちの森)	滝田久憲	9/24
8	千種	東山の森(うるおいの森)	瀧川正子	9/22
9	千種	城山八幡宮	山田やえ子	9/24
10	千種	名古屋大学東山キャンパス	伴知幾	9/24
11	東	矢田川橋緑地	山田祥夫	9/24
12	東	徳川園	茶原真佐子	9/22
13	北	名城公園	熊澤慶伯	9/23
14	西	庄内緑地	岩田育純	9/24
15	中村	中村公園	大主順一	9/23
16	中	久屋大通庭園	仁池琴菜	9/22
17	昭和	鶴舞公園	西尾知子	9/23
18	瑞穂	瑞穂公園	鷓飼普	9/23
19	熱田	神宮東公園	櫻谷保之	9/23
20	中川	荒子公園	宇野総一	9/24
21	港	戸田川緑地	渡辺大起	9/24
22	港	荒子川公園	細江初奈	9/22
23	南	呼続公園	浅井昭枝	9/23
24	守山	八竜緑地	細江真澄	9/23
25	守山	小幡緑地本園(北部)	北折晴美	9/22
26	守山	小幡緑地本園(児童園)	石原則義	9/23
27	守山	小幡緑地西園	石原則義	9/22
28	守山	東谷山フルーツパークA	松原裕隆	9/22
29	守山	東谷山フルーツパークB	永田直三	9/24
30	緑	大高緑地(花木園)	谷幹雄	9/23
31	緑	大高緑地(管理事務所周辺)	大矢芳樹	9/23
32	守山	みどりが丘公園	加藤敦子	9/22
33	緑	新海池公園	梅本洋子	9/23
34	緑	水広公園	梅本洋子	9/22
35	緑	滝ノ水緑地	鷲見順子	9/22
36	名東	明德公園	布目均	9/24
37	名東	猪高緑地(塚ノ杵池周辺)	安井弘	9/23
38	名東	猪高緑地(すり鉢池周辺)	萩原正弥	9/24
39	名東	牧野ヶ池緑地(管理事務所周辺)	森川晴つみ	9/22
40	名東	牧野ヶ池緑地(葉草の道)	巾賢治	9/24
41	天白	相生山緑地(オアシスの森)	近藤記巳子	9/23

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
42	天白	相生山緑地(南部)	近藤記巳子	9/24
43	天白	天白公園	上田雅子	9/24
44	天白	天白川緑道	石川登志子	9/23
45	天白	東山公園テニスセンター	渡邊裕介	9/22
<b>(補足調査)</b>				
46	天白	上八事第三公園	戸田尚希	9/10
47	天白	天白川であい公園	加藤修朗	9/10
48	北	楠公園	加藤修朗	10/15
49	中村	大正橋緑地	加藤修朗	10/15
50	昭和	昭和区役所	加藤修朗	10/18
51	瑞穂	瑞穂区役所	加藤修朗	10/18
52	天白	島田緑地	加藤修朗	10/18
53	守山	小幡緑地本園(西部)	加藤修朗	10/24
54	名東	猪高緑地(塚ノ杵池)	戸田尚希	9/14
55	千種	東山の森(くらしの森)	戸田尚希	9/28
56	港	庄内川河口	戸田尚希	9/15

連携団体

【名古屋市理科教育研究会】

地点No.	市・区	調査地名	リーダー	調査日
101	守山	西城小学校	小林哲	9/23

【ユース】

地点No.	市・区	調査地名	リーダー	調査日
201	千種	井上公園、瓶杵西公園	谷欣也	9/23
202	中村	庄内川河川敷(枇杷島橋周辺)	吉川靖浩	9/15
203	一宮市	愛知県立一宮高校	原いづみ	9/23

【他都市団体】

地点No.	市	調査地名	リーダー	調査日
301	瀬戸市	海上の森	石川明博	9/19
302	長久手市	モリコロパーク	水谷央	9/18
303	豊明市	二村山	浅野守彦	9/18
304	みよし市	境川源流ビオトープ	萩野典子	9/23
305	小牧市	尾張広域緑道フレッシュパーク	大塚象児	9/24
306	稲沢市	サリオパーク祖父江	森川了平	9/19
307	犬山市	犬山里山学センター	福田秀雄	9/16
308	尾張旭市	名産大近隣(寺田)の里山	長谷川泰洋	10/3

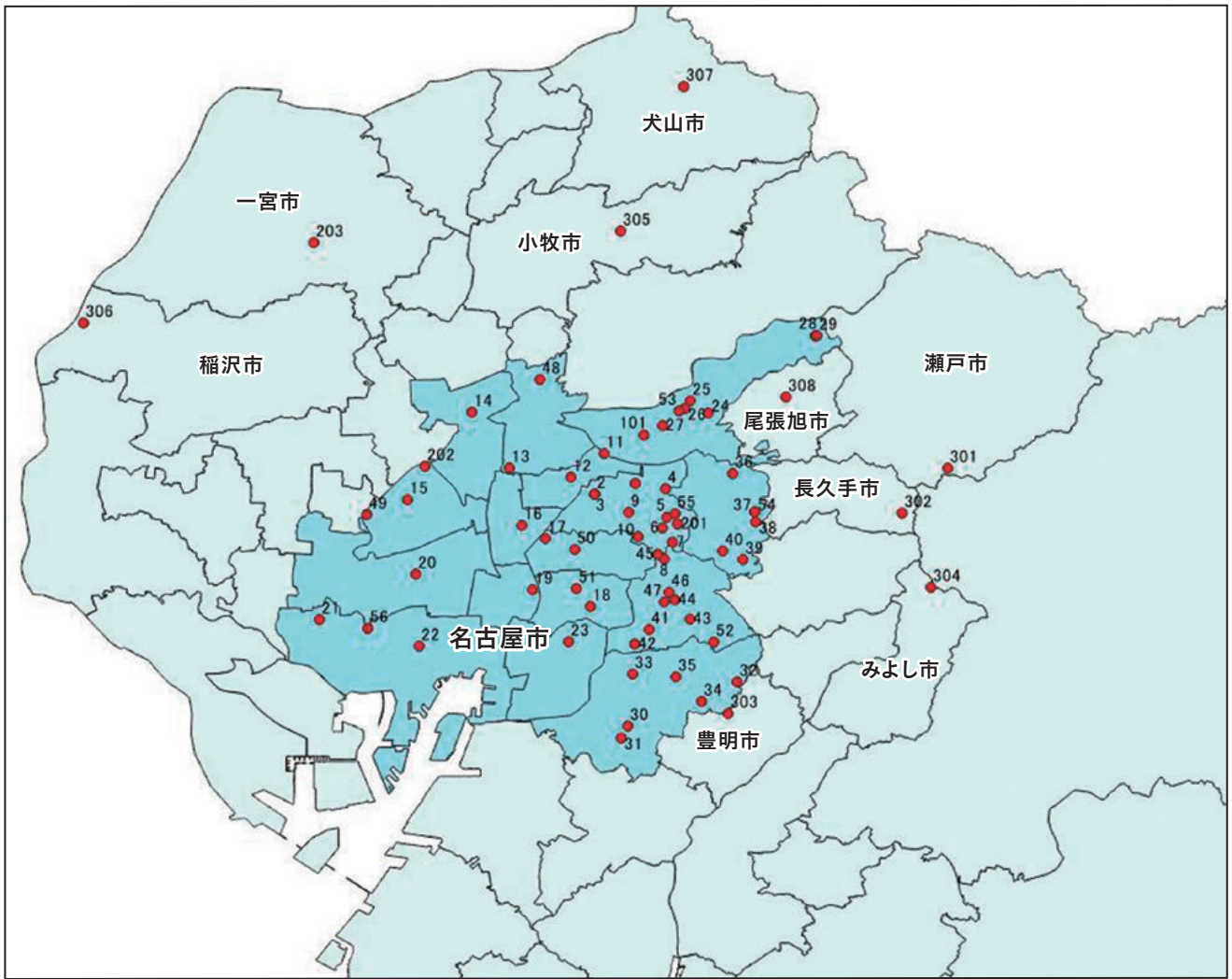


図1. 調査地点図

● 調査地点  
 — 市区町村境界



## (2) 調査当日

### 【午前】

- 各調査地で参加者にハエトリグモの同定資料（簡易検索表）を配布（P26～27）
- 調査リーダーや連携団体の代表者が調査の目的や方法などについて説明した後、調査を開始
- 調査後、参加者全員で同定資料に基づいて採集したハエトリグモの同定を実施

### 【午後】

- 現地で採集したハエトリグモの個体をリーダー・サブリーダーがなごや生物多様性センターに持参
- 連携団体が採集したハエトリグモは、代表者がなごや生物多様性センターに持参または事務局が後日に回収

## (3) 再同定

採集したハエトリグモは、なごや生物多様性センターにおいて加藤氏ら専門家が再同定し、種を確定しました。

なお、海上の森（瀬戸市）では、採集したハエトリグモをその場で放す必要があったため、専門家が同行し、現地で同定を行い種を確定しました。

## (4) 補足調査

リーダーによる調査の前後に、楠公園はじめ11地点で、専門家による補足調査を行いました。

## (5) 家屋調査

今回の一斉調査では、なごビオのリーダー・サブリーダーによるご自宅または勤務先での調査を実施し、建物内外におけるクモの分布も調査しました。



採集の様子



同定の様子

# 3. 調査結果と考察



## 3-1 調査対象

今回の調査ではハエトリグモ科のクモを調査対象としました。ただし、クモの採集は初めての方がほとんどのため、あらかじめ同定資料 (P 26～27) は提示しましたが、『迷うものはすべて採集』というルールにしました。なお、クモ及びハエトリグモの特徴は17ページの解説の通りです。

## 3-2 調査方法

クモの採集は独特のコツや視点があります。そのため事前に各調査地点のリーダーに対して、ビーティング (図2)、シフティング (図3)、ルッキング (図4) の実技の講習を行いました。

リーダー講習では、アリに似たアリグモ類や成体でも極小サイズのハエトリグモなどの実物も見ていただきました。講習に加え、採集の実際の動き方を動画にしたものを全参加者に配信しました。



図2 ビーティング (枝叩き)

枝を叩いて落ちたものを傘で受け、その中からクモを採集



図3 シフティング (落ち葉ふるい)

ビニールシートに広げた落ち葉の中からクモを採集



図4 ルッキング (見つけ採り)

トイレの外壁、手すりなどの人工物から目視によりクモを採集

調査では共食い防止のためハエトリグモを1個体ずつプラスチック容器に入れ、採集地点の環境を記録しました。ハエトリグモは図5のような場所に生息していますので、表2の区分により環境を記録しました。また、事前に配布した同定資料 (P26～27) を参考にして参加者自身が外見から種名を調べて記録用紙に記入しました。

その後、提出された個体を専門家が顕微鏡で同定を行い、最終的に種を確定しました。

表2 環境の区分

区分	
A	樹木
B	地表 (落ち葉)
C	地表 (石)
D	草地
E	人工物 (手すり・柵・看板など)
F	その他



図5 ハエトリグモの生息場所

## 3-3 調査結果

今回の一斉調査で採集した総数は2,235個体でした。内訳は表3 (P7) の通りです。また、調査地点別の結果は表4 (P8～9) の通りです。



ハエトリグモ1,120個体のうち、成体はメスが115個体、オスが157個体、幼体は848個体採集されました。種別の雌雄の内訳は図6の通りです。

表3 調査結果の内訳

	個体数	種数
ハエトリグモ	1,120	35
ハエトリグモ以外のクモ	1,022	91
クモ以外	38	—
不明	55	—
計	2,235	—

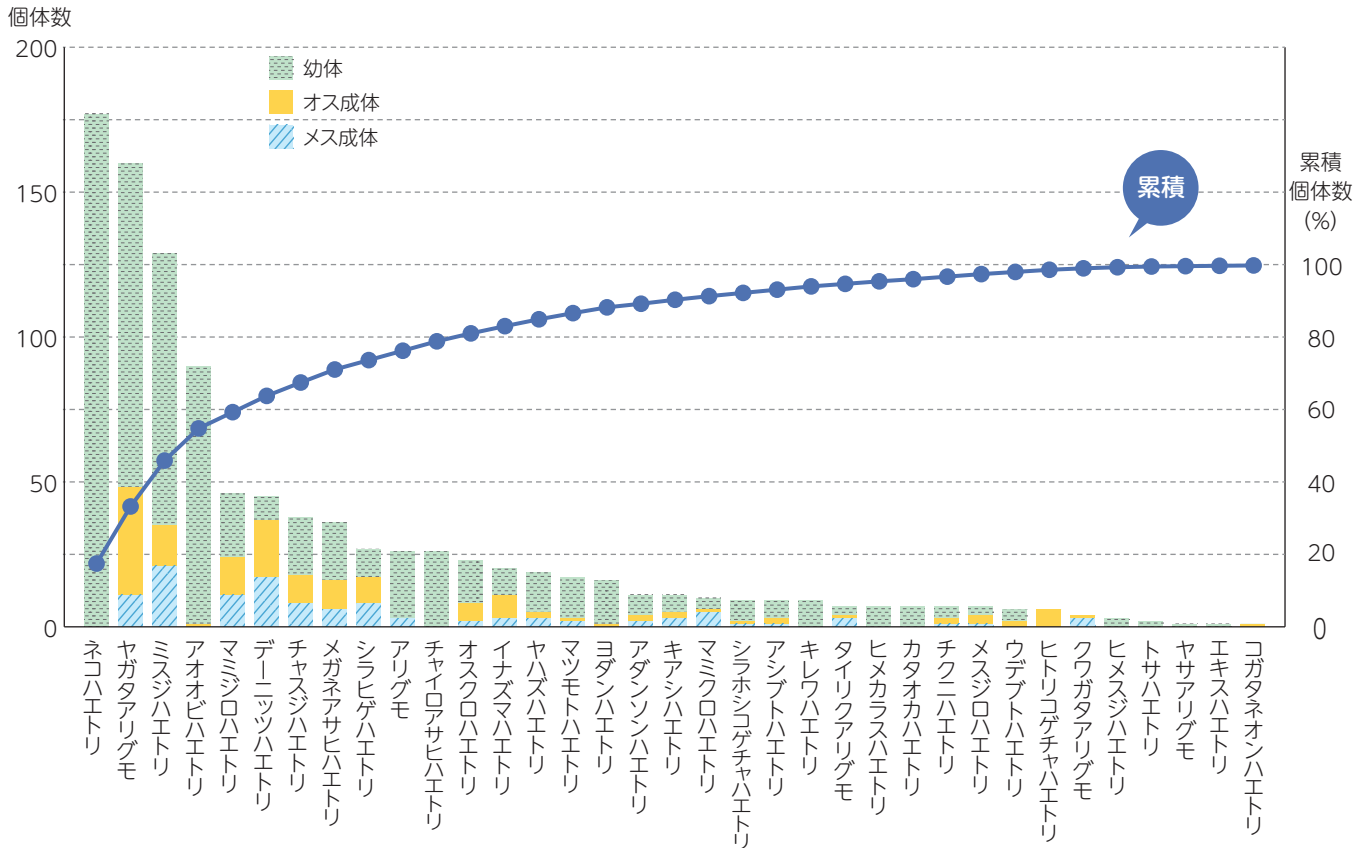


図6 調査結果(個体数順、雄雌別)

採集数の多いクモを見ると、木や草の上にいるサイズが大きめのハエトリグモが上位にきています。

ハエトリグモの繁殖期は春から秋の種が多く、今回調査した9月下旬は成体が多く見られる時期としてはギリギリのタイミングでした。ただ、今年は秋の気温低下が遅く例年に比較してクモの活動期間が延びて成体が遅くまで見られ、かつ越冬状態に入るのも遅れた印象です。気温要因と参加者の皆さまの頑張りにより、季節外れにもかかわらず、想定以上の個体数が採集できました。

### 名古屋市内の初記録

今回の調査では名古屋市内で33種(市外を含むと35種)のハエトリグモが採集されました。市内でのハエトリグモ科の採集記録は2022年までで37種です。今回新たにチクニハエトリ、トサハエトリ、ヒトリコゲチャハエトリの3種が初記録として加わり40種となりました(P10の表5)。今回見つからなかった種は、アメイロハエトリ、カラスハエトリ、タイリクアリグモ、ネオンハエトリ、マガネアサヒハエトリ、ムツバハエトリ、モンシロコゲチャハエトリの7種となります。なお、タイリクアリグモは市外では見つかりました。



## ハエトリグモ以外の個体

今回の調査では『ハエトリグモかも』と思われるものも採集したため、提出された個体のうちハエトリグモ以外のクモが91種1,022個体となりました。図7がハエトリグモ以外で多かったクモの上位です。ネコハグモ以外のクモは網を張らずに徘徊するという点でハエトリグモと共通点がありますが、『ハエトリグモに外見が似ているクモ』というよりは『9月下旬に野外でたくさん採りやすいクモ』という印象です。採集個体の中から厳密にハエトリグモだけを選んで提出されている調査地点もありました。

## クモ以外の個体

クモ以外では38個体が採集されました。カメムシの幼虫などさまざまな虫が入っていました(図8)。また、それ以外に損傷が激しく正体不明のものが55個体ありました。クモは体が柔らかく衝撃や高温、乾燥に弱いため、採集時はやさしく扱い、暑い時期は冷暗所で保管しないと、数時間で干からびてばらばらになってしまうことがあります。

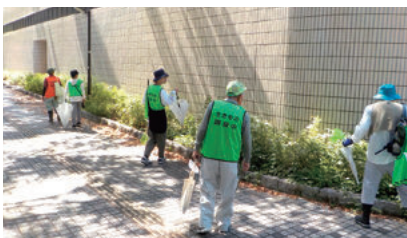


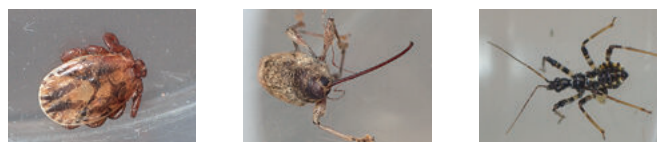
表5 名古屋市内の過去の採集記録との比較

和名	今回調査結果			
	名古屋市内 既知種	名古屋 市内	名古屋 市外	名古屋市内 初記録
1 アオオビハエトリ	○	○	○	
2 アシブトハエトリ	○	○		
3 アダンソンハエトリ	○	○		
4 アメイロハエトリ	○			
5 アリグモ	○	○		
6 イナズマハエトリ	○	○	○	
7 ウデブトハエトリ	○	○	○	
8 エキスハエトリ	○	○		
9 オスクロハエトリ	○	○	○	
10 カタオカハエトリ	○	○	○	
11 カラスハエトリ	○			
12 キアシハエトリ	○	○		
13 キレワハエトリ	○	○	○	
14 クワガタアリグモ	○	○		
15 コガタネオンハエトリ	○	○		
16 シラヒゲハエトリ	○	○		
17 シラホシコゲチャハエトリ	○	○	○	
18 タイリクアリグモ	○		○	
19 チクニハエトリ		○		○
20 チャイロアサヒハエトリ	○	○		
21 チャスジハエトリ	○	○	○	
22 デーニッツハエトリ	○	○	○	
23 トサハエトリ		○	○	○
24 ネオンハエトリ	○			
25 ネガネアサヒハエトリ	○	○	○	
26 ネコハエトリ	○	○	○	
27 ヒトリコゲチャハエトリ		○	○	○
28 ヒメカラスハエトリ	○	○	○	
29 ヒメスジハエトリ			○	
30 マガネアサヒハエトリ	○			
31 マツモトハエトリ	○	○	○	
32 マミクロハエトリ	○	○	○	
33 マミジロハエトリ	○	○	○	
34 ミスジハエトリ	○	○	○	
35 ムツバハエトリ	○			
36 メスジロハエトリ	○	○		
37 モンシロコゲチャハエトリ	○			
38 ヤガタアリグモ	○	○	○	
39 ヤサアリグモ	○	○		
40 ヤハズハエトリ	○	○	○	
41 ヨダンハエトリ	○	○	○	

注: ■ は名古屋市内初記録

種名	ササグモ	ネコグモ	アサヒエビグモ	イタチグモ	マダラフクログモ	ネコハグモ
個体数	153	148	78	60	58	40
確認地点数	36	32	27	18	21	10

図7 個体数が多かったハエトリグモ以外のクモ



マダニの仲間      シギゾウムシの仲間      サシガメの仲間

図8 クモ以外の個体

## 多様度指数(シャノン・ウィナー)

採集されたハエトリグモの個体数と種数から地点別に多様度指数を算出すると図9のようになります。最も多様度指数の高かったのは東山の森(くらしの森)、続いて、境川源流ビオトープ(みよし市)、海上の森(瀬戸市)、犬山里山学センター(犬山市)、小幡緑地本園(西部)となりました。

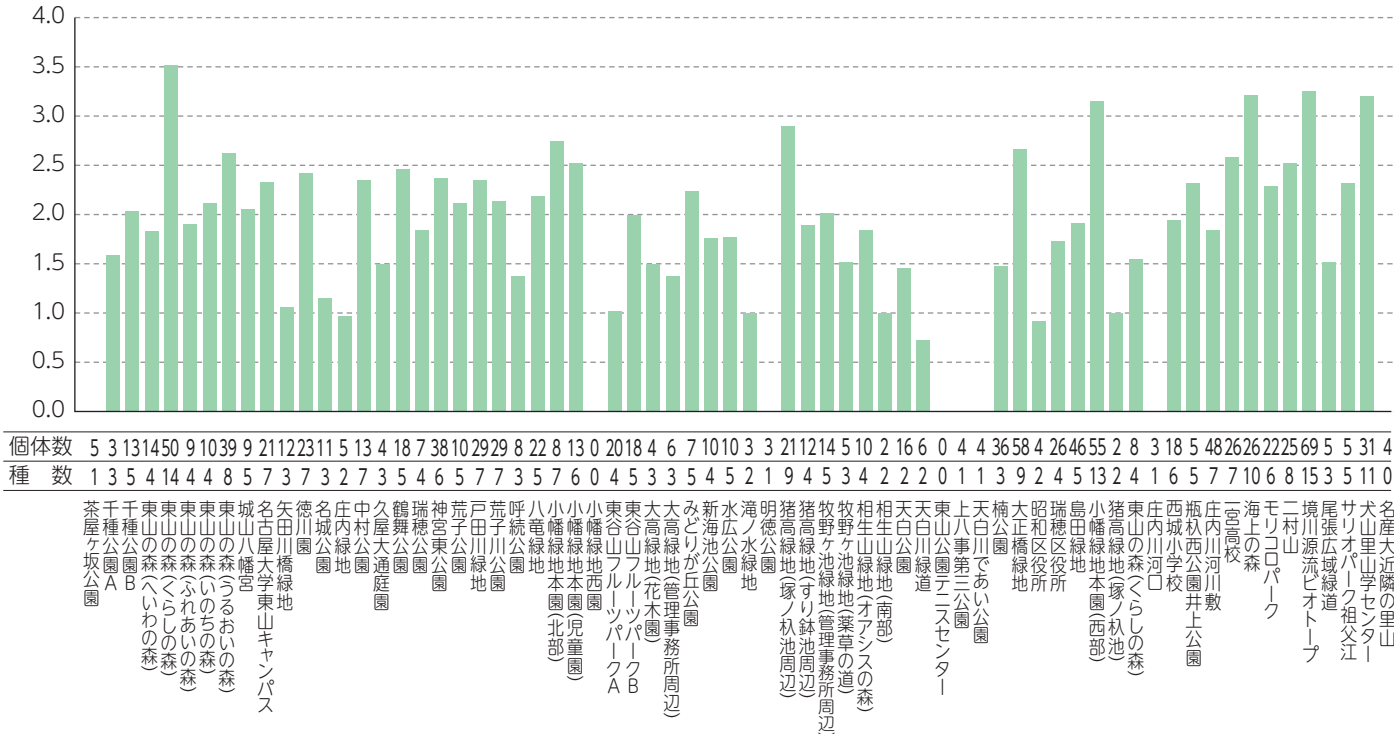


図9 多様度指数

注1: 多様度指数とは、生物多様性の大小を評価する数値の1つです。種数と個体数が多く、種間における個体数のばらつきが少ないほど大きい値を示します。種数が多くても、特定の種類だけ個体数が極端に多いと、多様度指数は小さくなります。(採集種が0または1種のみ場合は指数が0になります)  
 注2: 種数には、種が確定しないものは含んでいません。

## 3-4 考察

### (1) 生息環境

今回の調査で見つかった35種の採集環境を比べてみました。採集環境は表2(P6)の区分で記録しました。

全体としては図10にある通りです。区分A(樹木)とD(草地)は主にビーティングで採集されたもの、B(地表の落ち葉)はシフティングで採集されたもの、C(地表の石)とE(人工物)はルッキング採集で得られたものが多いと見られ、過半数がビーティング採集によるものと思われます。都市部の公園などでは落ち葉の堆積が少なく、シフティング採集に適した場所が少なかったことや、地表のハエトリグモは2~3ミリの極小サイズの種が多く、慣れないと見つけにくかったものと思われます。

環境別に採れた種を並べると次ページの表6の通りになります。ネコハエトリやヤガタアリグモ、ミスジハエトリなどたくさん採集された種は主に樹木にいるクモですが、樹木以外にも様々な環境に適応できていることがわかります。地表の落ち葉で採集されたクモのうち、ヨダゲンハエトリ、キレワハエトリ、マツモトハエトリなどの小型の種はほかの環境ではあまり見つかっていません。

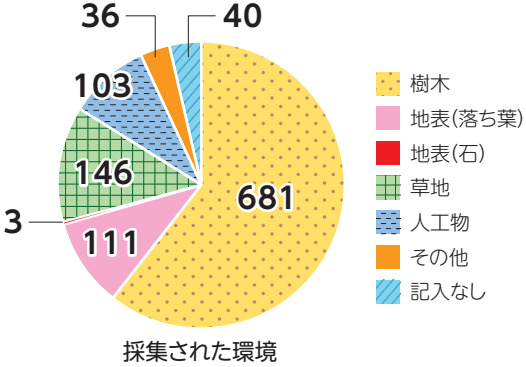


図10 調査結果(環境別)

表6 環境別の採集状況

樹木		地表(落ち葉)		草地		人工物	
ネコハエトリ	161	アオオビハエトリ	15	ヤガタアリグモ	36	チャスジハエトリ	26
ヤガタアリグモ	108	ミスジハエトリ	14	ヤハズハエトリ	14	シラヒゲハエトリ	23
ミスジハエトリ	97	メガネアサヒハエトリ	11	アオオビハエトリ	13	アオオビハエトリ	11
ヤマトハエトリグモの一種	62	ヨダンハエトリ	8	メガネアサヒハエトリ	10	ヤガタアリグモ	10
アオオビハエトリ	38	キレワハエトリ	8	オスクロハエトリの一種	8	ミスジハエトリ	7
デーニッツハエトリ	31	マツモトハエトリ	8	キアシハエトリ	8	シラホシコゲチャハエトリ	4
マミジロハエトリ	27	タイリクアリグモ	7	ネコハエトリ	7	ネコハエトリ	4
チャイロアサヒハエトリ	26	マミジロハエトリ	7	マミジロハエトリ	7	ハエトリグモの一種	3
アリグモ	21	アダンソンハエトリ	6	マミクロハエトリ	7	アダンソンハエトリ	2
イナズマハエトリ	17	ウデブトハエトリ	4	チクニハエトリ	7	マミジロハエトリ	2

注：環境別における採集個体数の上位10種。色付きは表4(P8~9)の個体数の上位4種。



(2) 多様度指数

多様度指数の高い地点(指数3.5前後)と低い地点(指数1.0)、それぞれ5か所を選んで以下の3点について比較してみました(表7)。

表7 多様度指数が高い地点・低い地点の比較

	調査日	調査地点	面積(km <sup>2</sup> )	多様度指数	採集種数	環境(水域)			湿地を好むハエトリ オスクロハエトリ ヤハズハエトリ	森林・草むらに多いハエトリ			
						池	河川	小川		ネコハエトリ	ヤガタアリグモ	ミスジハエトリ	アオオビハエトリ
指数の高い地点	9/24	東山の森(くらしの森)	0.498	3.5	14	○	×	○	1	4	7	2	5
	9/23	境川源流ビオトープ	0.107	3.3	15	○	×	○	21	0	1	3	7
	9/19	海上の森	4.228	3.2	10	○	×	○	0	2	3	2	3
	9/16	犬山里山学センター	2.924	3.2	11	○	×	○	1	1	0	0	0
	10/20	小幡緑地本園(西部)	0.562	3.2	13	○	×	○	0	0	17	1	6
指数の低い地点	9/22	東谷山フルーツパークA	0.083	1.0	4	○	×	×	0	16	1	1	2
	9/14	猪高緑地(塚ノ杓池)	0.716	1.0	2	○	×	×	0	0	0	0	0
	9/24	相生山緑地(南部)	0.267	1.0	2	×	×	×	0	0	0	0	1
	9/22	滝ノ水緑地	0.049	1.0	2	○	×	×	0	0	0	1	0
	9/24	庄内緑地	0.409	1.0	2	○	○	○	0	2	3	0	0

注：小川は公園内の流水

①調査地の面積

調査地面積が特に大きいもの(海上の森、犬山里山学センター)は上位にきましたが、それ以外(他の8か所)では面積との相関性は見られませんでした。面積は調査地点周辺の緑化面積が分かる指標として使用しました。

## ②水域

水域はおもに池（止水域）と川（流水域）に分かれます。表7の示す通り、池と小川の両方が存在する調査地の方が多様度指数は高くなりました。庄内緑地は全ての水域を含むのに多様度指数が低くなっていますが、これは水域周辺での採集が行われなかったため湿地を好むハエトリグモが含まれなかったためと考えられます。

## ③種別

今回確認された35種のうち採集数が多い上位4種類（P7の図6参照：全採集数の55%）のネコハエトリ、ヤガタアリグモ、ミスジハエトリ、アオオビハエトリの個体数を比べてみました。これらの4種は一般的な名古屋市周辺の雑木林や植栽で多く見られるものです。多様度指数の高い犬山里山学センターではネコハエトリしか見つかっていませんが、名古屋市周辺とは環境が違うためではないかと推測されます。特にヤガタアリグモなどは都市部から離れるほど減少していきます。

以上から、多様度指数は敷地面積に関係はなく水域、特に川の存在で大きく変わってくると読みとれます。そして市内（くらしの森、小幡緑地）と市外（犬山里山学センター）を比較してみると、クモ相は違っても多様度指数は大きく違わないのに気がつきます。これは単位面積当たりで種間競争が発生してクモの種数がある一定値に決定づけられているのかもしれない。

## (3) 雌雄のバランス

雌雄の個体数はP7で示した通りですが、成体のみを比較するとメスが42.3%、オスが57.7%の割合になります。この数値には違和感があります。何故ならばクモは先にオスの成体が出現し、少し遅れてメスの成体が出現して交尾（昆虫の交尾とは方法が違うので交尾と呼びます）をします。役目を終えたオスは死んでしましますが、メスは産卵（卵は卵嚢によって包まれます）して卵や子グモを守るために生き続けます。結果として寿命の長いメスが長く採集されることになります。しかし今回はオスが長く採集されて逆の結果になっています。

クモ全般ではメスが多いという実感があるため2022年度の調査実績（名古屋市のRDB調査を含む分布調査）を集計して確認しました。サンプルとして造網性2科（コガネグモ科、ヒメグモ科）と徘徊性2科（フクログモ科、コモリグモ科）を並べて比較しました（表8）。比較対象に4種を選んだのは造網性のクモと徘徊性のクモの違いを見るためです。今回の一斉調査と2022年度の9月調査結果を比較するとハエトリグモの雌雄はまったく同じ比率（小数点以下1桁まで）でした。1年間に採集された分では、ハエトリグモ科は雌雄がほぼ同じ比率ですが、他科のクモは予想通りメスの比率が高くなっていました。徘徊性（フクログモ科、コモリグモ科）では少しオスの比率が上がりますが大きな乖離はありませんでした。ハエトリグモの雌雄の比率が同じなのは何故なのか、新しい研究テーマが見つかりました。

『なぜ採集されたオスの数が多かったのか?』については種ごとに多くの角度から考察する必要がありますが、データが少なくできませんでした。簡単な可能性として以下のものを紹介します。

①メスが産卵のために巣に閉じこもって徘徊しなくなったため採集されなかった。

②ハエトリグモはオスの寿命がメスと同様に長いかもしれない。

③春の繁殖期に向けオスが早々に成体になっていた。（元々オスはメスより先に成体になる）

④ヤガタアリグモのような移入種が早春から初冬まで活動していることにより、季節感が欠如してきた。

表8 2022年度調査の結果(雌雄の割合)

科名	生活様式	性別	9月の比率	年間集計	
				比率	個体数
コガネグモ科	造網性	♀	66.7%	60.5%	95
		♂	33.3%	39.5%	62
ヒメグモ科	造網性	♀	62.5%	62.7%	151
		♂	37.5%	37.3%	90
フクログモ科	徘徊性	♀	66.7%	58.8%	50
		♂	33.3%	41.2%	35
コモリグモ科	徘徊性	♀	データなし	56.0%	42
		♂		44.0%	33
ハエトリグモ科	徘徊性	♀	42.3%	48.1%	148
		♂	57.7%	51.9%	160

### 3-5 家屋調査

今回は各地点のリーダーとサブリーダーのご自宅または勤務先の建物内外でもクモ（ハエトリグモ以外も含む）を採集し、一斉調査の分とは別に家屋調査分として提出していただきました。

50人の皆さまに53か所で調査していただき、総計250個体、うちハエトリグモは10種、97個体が採集できました。屋内のクモはなかなか調査できる機会がないため、貴重なデータを得ることができました。

家屋調査で採集されたハエトリグモの個体数、雄雌別、採集された環境別の内訳は表9の通りです。一般的に室内性と言われている3種が上位になり（図11）、チャスジハエトリがもっとも多い結果となりました。



チャスジハエトリ



アダンソンハエトリ



ミスジハエトリ

図11 家屋調査で個体数の多かったハエトリグモ

表9 家屋調査のハエトリグモの内訳(雌雄別・環境別)

種名	個体数	雌雄別			環境別						
		メス成体	オス成体	幼体	a	b	c	d	e	f	記入なし
					居室	外壁	溝	ブロック塀など	納屋	その他	
チャスジハエトリ	35	6	9	20	12	14		4	1	2	2
アダンソンハエトリ	24	9	10	6	14	5		1	1		3
ミスジハエトリ	14	4	4	6	5	3				6	
ヤガタアリグモ	7	1		6		1				6	
ネコハエトリ	6			6		3				2	1
アリグモ	3			3	3						
ヒトリコゲチャハエトリ	2			2		1				1	
シラヒゲハエトリ	1	1						1			
アオオビハエトリ	1			1		1					
カタオカハエトリ	1			1			1				
ハエトリグモの一種	3			3	1					1	1
個体数	97	21	23	53	35	28	1	6	2	18	7
種数	10	5	3	9	4	7	1	3	2	5	3

家屋調査での上位3種を一斉調査(室外)の採集分と合わせて比較してみました(次ページの表10)。家屋調査で採集されたもののうち、居室(a)+外壁(b)を室内と考えました。参加人数の違い(家屋調査は50人、一斉調査は614人)はありますが単純に比較すると、アダンソンハエトリはチャスジハエトリやミスジハエトリに比べて室外での生息率は低いと思われます。

表10 室内上位3種

種名	家屋調査	環境別							一斉調査(室外)	環境別						記入なし	
		a	b	c	d	e	f	記入なし		室内(a+b)	A	B	C	D	E		F
		居室	外壁	溝	ブロック塀など	納屋	その他				樹木	地表(落ち葉)	地表(石)	草地	人工物		その他
チャスジハエトリ	35	12	14		4	1	2	2	26	38	6	1		1	26	4	
アダンソンハエトリ	24	14	5		1	1		3	19	11	3	6		2			
ミスジハエトリ	14	5	3				6		8	129	97	14		2	7	3	6

調査結果より3種の室内外での優勢順位をまとめると以下の通りとなります。

室内 チャスジハエトリ > アダンソンハエトリ > ミスジハエトリ

室外 ミスジハエトリ > チャスジハエトリ > アダンソンハエトリ

室内での優勢順位はハエトリグモの体の大きさに比例しています。室外ではアダンソンハエトリが劣勢ですが、これは南方からの移入種(詳細はコラムに記載)であるために室外の自然環境下では低温に耐え切れないためと思われます。温暖化の影響により3種の優勢順位がどのように変化していくのか気になるところです。



※注：地図の白い点は調査した場所。黒い点はそのクモが採集されたことを示します。

図12 家屋調査の室内上位3種の分布

コラム

アダンソンハエトリとミスジハエトリ

人家内に棲むハエトリグモは「黒いちっちゃいクモ」「飛びグモ」として人気があります。でも、昔はアダンソンハエトリはいませんでした。筆者が愛知県内でアダンソンハエトリを初めて見たのは20年ほど前のことで、街中のカメラ店で山積みになっている商品の箱の上を軽やかに跳ね歩く姿をよく覚えています。

アダンソンハエトリは江戸時代後期に長崎の出島に渡来し、物流や温暖化とともに北上を続けてきたといわれます。自分より大型のチャスジハエトリには敵わないようですが、やや小型のミスジハエトリを野外に追い出して棲み着きます。1970年代、アダンソンハエトリが進出してきた大阪ではミスジハエトリは人家内よりも野外で見られるようになっていました。それから約35年かけて名古屋を経て、東京以北でもアダンソンハエトリが人家内でよく見られるようになりました。ミスジハエトリは人家にもいるけれど野外に沢山いるクモになっています。



## コラム

### ゴキブリを食べてくれるアシダカグモ(アシダカグモ科)

今回の調査では大型種のアシダカグモが6個体採集されました。一斉調査で1個体、家屋調査で5個体見つかりました。日本国内の徘徊性のクモとしては最大種で、成体のメスは3cmになるものもいます。主に屋内で夜に活動し、ゴキブリやハエなどの害虫を食べてくれる益虫です。



アシダカグモ♂  
(天白区にて採集)



アシダカグモ♀  
(8月に三重にて採集)

## コラム

### 絶滅危惧(CR)ワスレナグモ(ジグモ科)

今回の調査ではワスレナグモが7個体採集されました。「名古屋市版レッドリスト2020」では絶滅危惧IA類に指定されている希少種です。

環境省では準絶滅危惧 (NT) に指定されています。そして33地域で何らかの絶滅危惧種として指定を受けています。

ワスレナグモは平地に10~20cmほど縦穴を掘って日中は巣の奥に隠れていて、夜になると巣穴の出入り口に頭と足を出して獲物が通りかかのを待ち受けます。巣穴は単に小さな丸い穴が開いているだけなので見つけるには粘り強い忍耐力が必要になります。巣穴から出てくるのは、真夏の子グモ達が集まる時、秋の繁殖期にオスがメスを探して徘徊する時ぐらいに限られます。今回の調査では、巣から出て徘徊していたワスレナグモのオスがアリグモのオスに似ているので間違っ採集されたものと思われます。一斉調査は9月22、23、24日の3日間で行われましたが、ワスレナグモが採集されたのは9月22日のみでした。22日は夜明け前に少し雨が降りましたが、こうした気象条件が引き金となってオスが一斉に巣穴から出てメスを求めて徘徊が始まった可能性があります。

また、生息分布が守山区、名東区、千種区、天白区、緑区と東部丘陵地全域にまたがっていることが分かりました。全国で絶滅危惧種として指定されているワスレナグモは発見が難しいだけで本当は一般種である可能性も出てきました。



今回採集されたオス成体

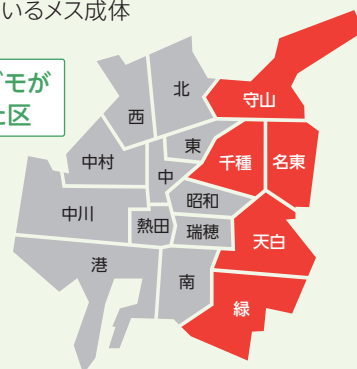


幼体の分散(夏)



巣穴にいるメス成体

ワスレナグモが  
確認された区



## 解説

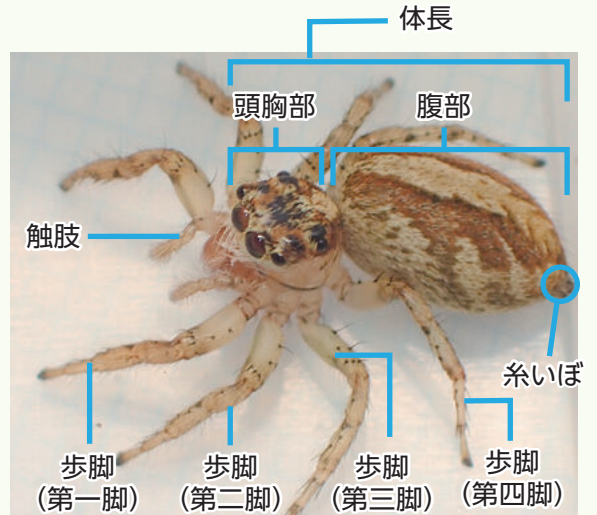
### クモとは

クモの体は頭胸部と腹部からなり、脚は8本あります。眼は普通8眼で、翅はありません。

クモは肉食で虫などを捕食するため、農薬のない時代の農家はクモを益虫として大切にしてきました。

クモの中には、餌を捕る罫としての「クモの巣」(専門的には「網」)を張るクモと張らないで徘徊したり待ち伏せするクモがあり、張らないクモは半分程度になります。どちらのクモも腹部の先端にある糸いぼから常に糸を出して命綱にしています。

卵から孵化し脱皮を繰り返した後、オスは成体になると触肢の先が大きく膨らみ、メスは腹部に外雌器ができます。



デーニッツハエトリのメス成体

#### ミスジハエトリの例



幼体

オス成体

メス成体

### ハエトリクモとは

ハエトリクモは、クモ目ハエトリクモ科に属するクモの総称です。

日本では100種以上確認されており、姿形もさまざまです。

おもな特徴は…

○大きなヘッドライトのような前中眼があり、視力がとてもよいです。

○獲物を捕るための「クモの巣」を作りません。

ただし、住居として糸で巣を作る場合があります。

○ぴょんぴょんと跳びはねるように移動します。

○雌と雄、成体と幼体で模様が大きく異なる種もあります。



ヨダンハエトリのオス成体



ネコハエトリ



アオオビハエトリ



ヤバズハエトリ



アリグモ

### 3-6 種別解説

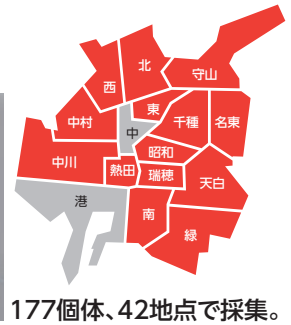
今回の一斉調査で採集したハエトリグモ35種について解説します。採集個体数の多い順です（家屋調査の採集分は含みません）。写真は注記あるもの以外すべて今回採集した個体を撮影したものです。

#### 1. ネコハエトリ

学名：*Carrhotus xanthogramma* (Latreille, 1819)

時期：初夏

庭から樹林地に至るまで樹木の葉上で普通に見られる。斑紋や体色の変異が大きく、触肢に毛が多いのが特徴。ネコハエトリのオス同士を戦わせる横浜のホンチ遊びが有名。



#### 2. ヤガタアリグモ

学名：*Myrmarachne elongata* Szombathy, 1915

時期：春から秋

人家の周辺や公園、河川敷などの草や木の上に見られる。アリに擬態している。体色の変異が大きく、赤みのある個体も黒い個体もいる。

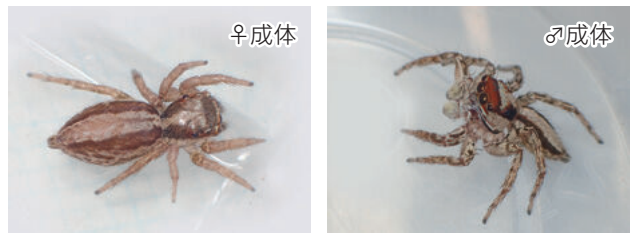


#### 3. ミスジハエトリ

学名：*Plexippus setipes* Karsch, 1879

時期：春から秋

家の中や周辺、屋外の枯れ枝の集積所などで見られる。オスは眼の周りが赤く色づく。以前は屋内に多かったが、今は屋外で見られることが多い。



#### 4. アオオビハエトリ

学名：*Siler cupreus* Simon, 1889

時期：春から秋

アリを好んで食べる。アリの巣の近くだけでなく地表、草、木、公園の手すりなどの人工物を含め広範囲で見かける。第一脚を挙げリズミカルに歩く。



#### 5. マミジロハエトリ

学名：*Evarcha albaria* (L. Koch, 1878)

時期：春から秋

オスの頭胸部前方の白い毛が眉毛のように見える。庭先や草地の草や低木の上で見られる。メスはネコハエトリとマミクロハエトリに似る。



## 6. デーニッツハエトリ

学名：*Plexippoides doenitzi* (Karsch, 1879)

時期：春から秋

雑木林などの木の上に見られる。雌雄に色彩的な変化はない。春と秋に成体を見かける。



45個体、16地点で採集。

## 7. チャスジハエトリ

学名：*Plexippus paykulli* (Audouin, 1826)

時期：春から秋

人家の内外でよく見られる大型のハエトリグモ。関東地方以南に多く、温暖化に伴い北上していると言われている。



38個体、18地点で採集。

## 8. メガネアサヒハエトリ

学名：*Phintella linea* (Karsch, 1879)

時期：春から秋

草地や耕作地、樹林地の草や木の上に見られる。本種とチャイロアサヒハエトリとメガネアサヒハエトリは小さな幼体での同定は困難。



36個体、8地点で採集。

## 9. シラヒゲハエトリ

学名：*Menemerus brachygnathu* (Thorell, 1877)

時期：春から秋

人家の外壁やブロック塀、公園のトイレの壁など日当たりの良い場所を好み、開けた場所の樹幹にも見られる。



27個体、10地点で採集。

## 10. アリグモ

学名：*Myrmarachne japonica* (Karsch, 1879)

時期：初夏

アリに擬態しているアリグモの仲間の中では大型。オスの成体は上顎が大きく発達する。秋はヤガタアリグモよりも早く姿を消す。



※今回オス成体は採集されず。



26個体、12地点で採集。

## 11. チャイロアサヒハエトリ

学名：*Phintella abnormis* (Bösenberg & Strand, 1906)

時期：初夏

樹林地の木や草の上に見られる。本種とメガネアサヒハエトリとマガネアサヒハエトリは小さな幼体では判別は難しい。



※今回成体は  
採集されず。



26個体、2地点で採集。

## 12. オスクロハエトリ

学名：*Mendoza canestrinii* (Ninni, 1868)

時期：春から秋

水田や湿地で見られる大型のハエトリグモ。ヨシやイネの葉に産室を作り産卵する。幼体とメスの成体はヤハズハエトリに似ている。ヤハズハエトリより湿った環境に多い。



23個体、4地点で採集。

## 13. イナズマハエトリ

学名：*Orienticius vulpes* (Grube, 1861)

時期：春から秋

草地や樹林地の木の幹や枝に見られるやや小型のハエトリグモ。



20個体、10地点で採集。

## 14. ヤハズハエトリ

学名：*Mendoza elongata* (Karsch, 1879)

時期：春から秋

草地のススキなどのの上に見られる大型のハエトリグモ。幼体とメスの成体はオスクロハエトリに似ている。オスクロハエトリ(メス)の腹部後端に2対の黒点があり、本種にはない。



19個体、6地点で採集。

## 15. マツモトハエトリ

学名：*Bristowia heterospinosa* Reimoser, 1934

時期：春から秋

公園や河川敷、耕作地の湿った落ち葉の中に見られる小型のハエトリグモ。オスの第一脚がとてもしっかりと長く、曲げ伸ばしを繰り返して歩く。



17個体、8地点で採集。

## 16. ヨダンハエトリ

学名：*Marpissa pulla* (Karsch, 1879)

時期：初夏

落ち葉の上や枯れ枝の集積場など地表近くで見られる。雌雄共に腹部に四本の鮮やかな赤い帯がある。オスの触肢はグローブのように大きく膨らむ。



16個体、9地点で採集。

## 17. アダンソンハエトリ

学名：*Hasarius adansonii* (Audouin, 1826)

時期：春から秋

屋内に多いハエトリグモ。年々分布域が北上している。野外では湿った落ち葉や人工物で見つかる。自然度が高い場所では見かけない。



11個体、7地点で採集。

## 18. キアシハエトリ

学名：*Phintella bifurcilinea* (Bösenberg & Strand, 1906)

時期：春から秋

草地や樹林地の草や木で見られる小型のハエトリグモ。メスは構造色で七色に輝く。

※構造色とは光の反射で角度により様々な色に見える現象。



11個体、4地点で採集。

## 19. マミクロハエトリ

学名：*Evarcha fasciata* Seo, 1992

時期：春から秋

河川敷や水辺にある草地の草の上で見られる。メスはマミジロハエトリに似ているが、本種は頭胸部の首輪模様が無い。



10個体、3地点で採集。

## 20. シラホシコゲチャハエトリ

学名：*Attulus penicillatus* (Simon, 1875)

時期：春から秋

草地や河川敷などの乾いた地表に見られる小型のハエトリグモ。石の下や倒木の下に巣を造る。工事用のパイロンの下などでも見つかる。



9個体、4地点で採集。

## 21. アシブトハエトリ

学名：*Pancorius crassipes* (Karsch, 1881)

時期：春から秋

樹林地の木の上に見られる大型のハエトリグモ。朽ち木や樹皮の下で越冬する。



9個体、6地点で採集。

## 22. キレワハエトリ

学名：*Sibianor pullus* (Bösenberg & Strand, 1906)

時期：春から秋

草地や耕作地、河川敷、樹林地などの地表や草の上に見られる小型のハエトリグモ。ウデブトハエトリに似ている。



※今回成体は採集されず。



9個体、3地点で採集。

## 23. タイリクアリグモ

学名：*Myrmarachne formicaria* (De Geer, 1778)

時期：春から秋

湿地や水田周辺の地表や草で見かける。ヤガタアリグモに似ている。頭胸部が大きい。アリグモの仲間の中ではやや小型。



7個体、1地点で採集。

※みよし市で採集。

## 24. ヒメカラスハエトリ

学名：*Rhene albigera* (C.L.Koch, 1848)

時期：春から秋

自然度の高い樹林地の木で見つかる小型のハエトリグモ。体形が丸みを帯びていて頭胸部は平坦。



※今回成体は採集されず。



7個体、2地点で採集。

## 25. カタオカハエトリ

学名：*Euophrys kataokai* Ikeda, 1996

時期：春から秋

草地や河川敷などの落ち葉の上で見かける小型のハエトリグモ。オスの脚は非常に鮮やかなオレンジ色になる。



※今回成体は採集されず。



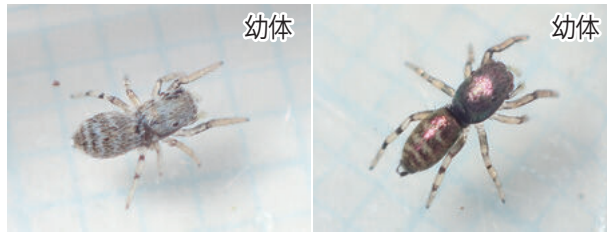
7個体、5地点で採集。

## 26. チクニハエトリ

学名：*Helicius chikunii* (Logunov & Marusik, 1999)

時期：春から秋

河川敷など水辺の草の上に見られる小型のハエトリグモ。光沢がある個体とない個体がある。



7個体、1地点で採集。

## 27. メスジロハエトリ

学名：*Phintelloides versicolor* (C. L. Koch, 1846)

時期：春から秋

樹林地の沢のような水辺近くの木の上で見られる。雌雄の様子が極端に違う。メスは純白でオスの白斑はクリーム色。



7個体、1地点で採集。

## 28. ウデブトハエトリ

学名：*Harmochirus insulanus* (Kishida, 1914)

時期：春から秋

樹林地の地表で見つかる。キレワハエトリに似ているが、本種は腹部後端に「へ」の字型の白状紋がある。



※今回メスの成体は採集されず。



6個体、5地点で採集。

## 29. ヒトリコゲチャハエトリ

学名：*Attulus avocator* (O. P.-Cambridge, 1885)

時期：春から秋

人家の外壁や河川敷の石に見られる。壁の窪みにつくった袋状の住居の周辺を歩き回る。



※今回オス成体だけ採集された。



6個体、5地点で採集。

## 30. クワガタアリグモ

学名：*Myrmarachne kuwagataa* Yaginuma, 1967

時期：春から秋

河川敷などの草の上に見られる。他のアリグモの仲間に比べてオスの上顎(鋏角)が短く遠目にはメスのように見える。雌雄ともに全体に光沢がない。



4個体、1地点で採集。



### 31. ヒメスジハエトリ

学名：*Talavera ikedai* Logunov & Kronstedt, 2003

時期：春から秋

草地や河川敷、耕作地などの地表に見られる小型のハエトリグモ。雌雄ともに縦のストライプ模様がある。



※今回成体は採集されず。



3個体、1地点で採集。  
※みよし市で採集。

### 32. トサハエトリ

学名：*Tasa nipponica* Bohdanowicz & Prószycki, 1987

時期：初夏

樹林地の木で見つかる小型のハエトリグモ。コジャバラハエトリ、ジャバラハエトリととてもよく似ている。



※今回成体は採集されず。



2個体、2地点で採集。

### 33. ヤサアリグモ

学名：*Myrmarachne inermichelis* Bösenberg & Strand, 1906

時期：初夏

黒くて光沢があり体形が細長い。オス成体の上顎（鋏角）が他種に比べて著しく長い。



※今回成体は採集されず。



1個体、1地点で採集。

### 34. エキスハエトリ

学名：*Laufeia aenea* Simon, 1889

時期：春から秋

樹林地の木の幹に見られる小型のハエトリグモ。樹皮の表面やすき間に住居を作りその周辺にいる。



※今回成体は採集されず。



1個体、1地点で採集。

### 35. コガタネオンハエトリ

学名：*Neon minutus* Zabka, 1985

時期：通年

樹林地の地表に見られる小型のハエトリグモ。市内では広く生息するが、小さいので慣れないと見つけにくい。



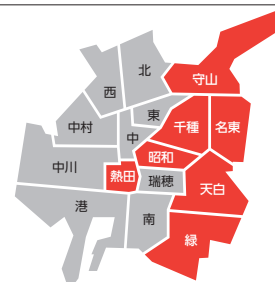
※ハエトリグモハンドブックより



1個体、1地点で採集。

### 番外 ヤマトハエトリグモ属の一種

チャイロアサヒハエトリ、メガネアサヒハエトリ、マガネアサヒハエトリは小さな幼体では区別が難しく、判別不明な個体はすべて本項目に計上。10月の補足調査時には斑紋がはっきりして判別しやすくなった。



72個体、17地点で採集。

## 4. 調査後のアンケート



### 4-1 調査に対する満足度

リーダー等を除く参加者に対して、調査後にアンケートへの回答をお願いしました。連携団体を含め503人の参加者から247の回答を得ました。

調査に対して約80%の人が「楽しかった」と答え、「やや楽しかった」を含めると99%になりました。ほぼすべての参加者にハエトリグモの調査を楽しんでいただけたようです。

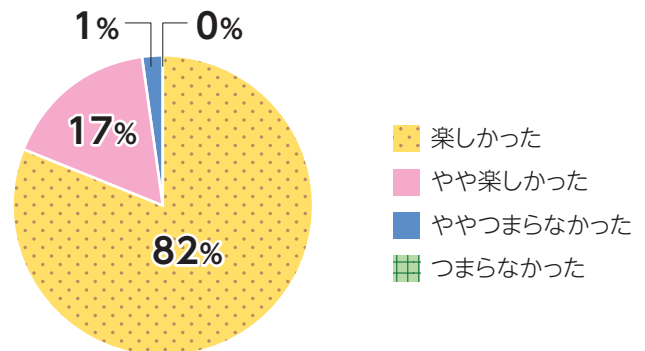


図13. 満足度

### 4-2 参加者について

なごビオの調査地点では、参加者の年代及び応募方法についてもお尋ねしました。

参加者のうち最も多かったのは10代で、全体の40%弱を占めました。次いで、20代が15%で、今回の一斉調査では若い世代の参加者が過半数を占めました。なごビオ実施地点では、10代のうち小学生（未満を含む）が約40%を占め、子どもたちの関心が高かったようです。一方、他都市の保全団体では50代以上が75%でした。

参加者を応募方法別に分類すると、今回も友人・知人を介して知ったという人が3分の1強で最多でした。ついで、配布チラシとなります。チラシは公園施設、図書館、自然観察会などで入手されていました。その他では、団体、会社、学校の部活動を通じて参加という人が多かったようです。

今後も様々な方法で広報に努め、多くの方に参加していただけるよう取り組んでまいります。

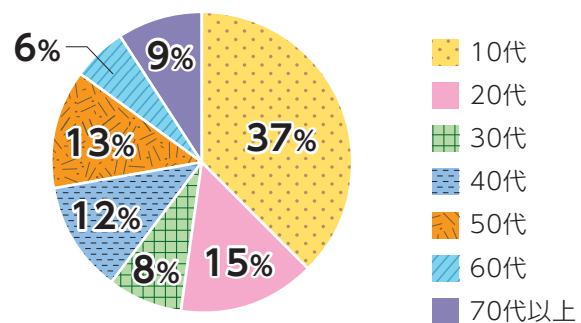


図14. 参加者の年代

### 4-3 参加者の声

参加者の感想によると、小さなハエトリグモの同定は難しかったようですが、ビーティングやシフティングという採集方法は面白かったようです。また、クモが格好いい、かわいいという感想もいただきました。

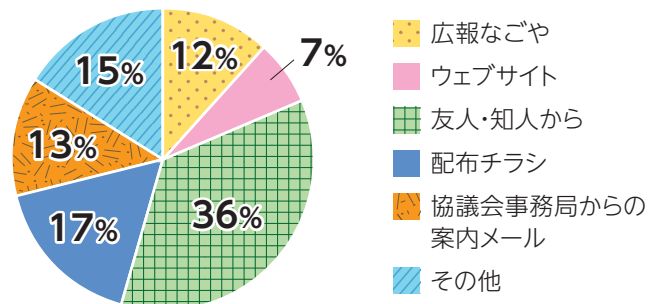
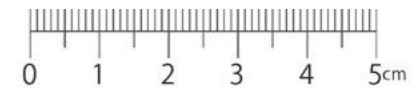


図15. 応募方法

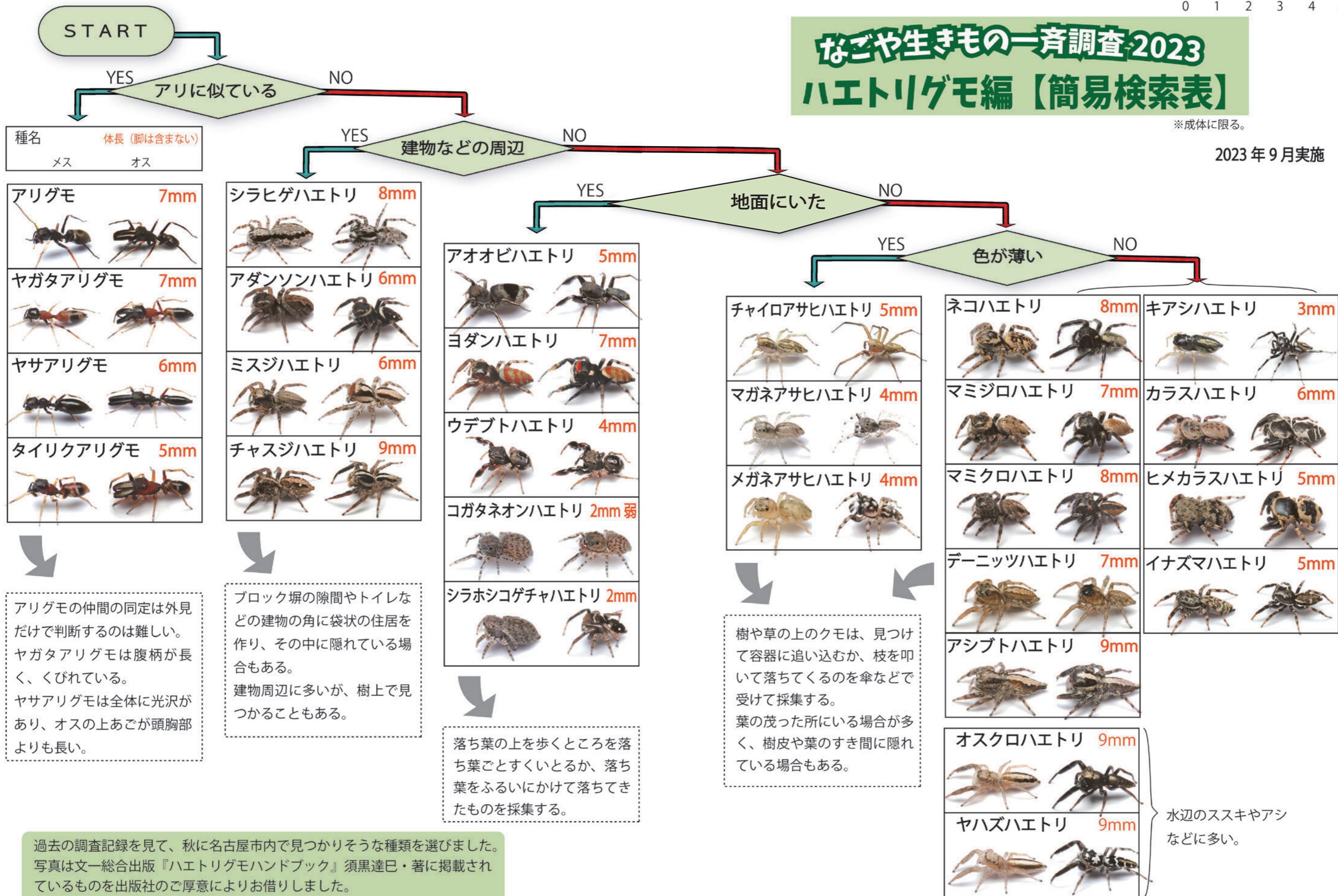
# 5. 同定資料



## なごや生きもの一斉調査2023 ハエトリグモ編【簡易検索表】

※成体に限る。

2023年9月実施



# 6. 活動アルバム



千種区 茶屋ヶ坂公園



千種区 東山の森(うらおいの森)



千種区 東山の森(ふれあいの森)



千種区 千種公園B



千種区 名古屋大学東山キャンパス



千種区 東山の森(くらしの森)



千種区 城山八幡宮



千種区 東山の森(いのちの森)



千種区 東山の森(へいわの森)



千種区 千種公園A



西区 庄内緑地



港区 戸田川緑地



港区 荒子川公園



中区 久屋大通庭園



瑞穂区 瑞穂公園



東区 徳川園



東区 矢田川橋緑地



南区 呼続公園



中村区 中村公園



北区 名城公園



中川区 荒子公園



守山区 小幡緑地本園(北部)



守山区 東谷山フルーツパークA



熱田区 神宮東公園



守山区 小幡緑地西園



守山区 みどりが丘公園



守山区 小幡緑地本園(児童園)



守山区 八竜緑地



昭和三鶴舞公園



緑区 大高緑地(花木園)



緑区 大高緑地(管理事務所周辺)



緑区 新海池公園



緑区 滝ノ水緑地



名東区 牧野ヶ池緑地(管理事務所周辺)



名東区 猪高緑地(塚ノ杵池周辺)



緑区 水広公園



名東区 明德公園



名東区 猪高緑地(すり鉢池周辺)



天白区 相生山緑地(オアシスの森)

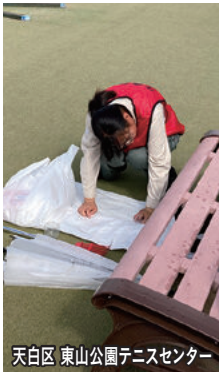


天白区 天白公園



天白区 相生山緑地(南部)

## 6. 活動アルバム



天白区 東山公園テニスセンター



天白区 天白川緑道



中村区 庄内川河川敷(枇杷島橋周辺)



千種区 井上公園、瓶杣西公園



守山区 西城小学校



一宮市 愛知県立一宮高校



瀬戸市 海上の森



豊明市 二村山



小牧市 尾張広域緑道フレッシュパーク



稲沢市 サリオパーク祖父江



尾張旭市 名産大近隣(寺田)の里山

## 参加者・参加団体一覧 (敬称略・順不同)



以下の方々にご参加いただきました。

青木裕暢、青木房美、青木渉、秋元未宇、浅井昭枝、朝日一如、天木詩織、荒谷典子、安藤向日葵、安藤たいよう、飯田克彦、飯塚ゆかり、飯塚美心、飯野道彦、池谷未来、池田正明、石川郁葉、石川翔、石川進一郎、石川登志子、石樽純子、石黒鎌三、石田由吉、石原彩香、石原則義、磯村優斗、板倉暁子、板倉泰弘、市岡真有、伊藤康太、伊藤雅弘、伊藤和希、伊藤真弓、伊藤大輝、伊藤奈緒美、犬飼悠輝、井上隼輝、井上昌次、井上陽翔、井上真悠子、井上みつる、今泉響歌、今尾由美子、井村龍之祐、岩田育純、岩田信也、岩田陽基、岩田達明、植田晴也、上田雅子、上田理香、鷓飼普、臼井俊哉、宇野総一、梅本洋子、及川幸樹、大嶋正憲、大嶋美映、大嶋みのり、太田勝子、大島亮、大関弘、大主順一、大主香、大矢芳樹、岡島栄子、小川貴子、小倉直樹、刑部芳子、小澤佐智子、小澤奏杜、片岡篤実、片山友香、葛西美江、葛西圭悟、鹿島真美、鹿島聖太、加藤碧人、加藤昭子、加藤那奈、加藤凜、加藤敦子、加藤修朗、加藤聖子、加藤武彦、加藤巳幸、加藤保実、鎌田大資、川合碧馬、川崎健二、川崎真有、川崎絵文、川崎成馬、神原佳奈美、神原知央、キキ・ヌル・アザム・コリル、北折晴美、鬼頭洋子、木南泉枝、木南日奈太、木南圭人、熊澤慶伯、熊本ゆう子、熊本朱里、熊本たいし、久村三重子、倉内晟仁、河野彩会子、河野真理、小木曾子心音、小木曾心春、越中貴幸、小嶋康亮、小林真理子、近藤記巳子、近藤優吾、酒井謙、櫻谷保之、佐藤利行、柴田恒佑、仁池琴菜、鈴木恵里香、鈴木則志、鈴木真由子、薄奏佑、鷲見順子、千川啓、千川建、千川あおい、高岡留美、高木和彦、高木信雄、高綱正夫、高松一史、瀧川正子、滝田久憲、滝本茉唯、田京弘一、竹内渉、武田和樹、竹本俊太、田中絢子、田中俊平、田中智悠、田中芳衡、田中聡子、田中美穂子、谷幹雄、谷村大典、谷村陽子、谷村圭亮、谷村李音、田畑恭子、田幡真一郎、溜健太、茶原真佐子、塚本精蔵、塚本幸多朗、柘植実、柘植幸子、土屋ふうが、土屋佳弘、鶴崎裕也、寺島君子、徳升綾乃、徳升章久、徳升咲太郎、戸崎智文、戸田尚希、富永一正、富永悠正、豊田竜也、鳥谷幸子、仲井進、中桐未来、中島民子、中島茉里、中島稜大、永田直三、長野史耶、長野絵里、長野睦樹、中村拓海、中村百合枝、西井なな、西尾知子、西尾美帆子、西村奨之、西山佳那、西山泰平、丹羽愛子、丹羽健成、布目均、野田漢治、野々垣とくま、野元楽々、萩野典子、萩原正弥、橋爪雅明、橋爪幸美、服部みちよ、花澤みどり、巾賢治、林純子、林龍吾郎、原いずみ、原健人、半澤はるか、半澤悠司、伴拓哉、伴知幾、日置聡、久田浩一、福井尚子、福原伍希、舩橋泰彦、舩橋紀美代、舩橋知彦、舟橋里帆、福田利夫、洲上晃江、古川文子、細江初奈、細江真澄、堀千鶴、堀桃香、前川幸代、前野響子、前野圭子、前野朴春、柘田有香、松田佳大、松永寿里、松原裕隆、水谷英一、三宅春花、三輪謙太郎、向田陸人、ムハマド・ナーファイク・ヒバチュラ、村上学史、村上純子、村上元寿、村中優仁、毛利崇、毛利航太郎、靱山良子、森川晴つみ、森悟、森新、森光宏、森睦代、安田清賀、安井敏彦、安井弘、保田貴博、矢野大智、山口喬也、山口瑛大、山口葵土、山郷杏莉、山田晃説、山田祥夫、山田哲也、山田やえ子、山田佑子、山場勇佑、山辺寛子、山辺しの、山本晃平、山本真子、山本佑紀、山田義哲、横井敦史、横井利文、横山悠理、吉田美里、吉平貴博、吉森ほのか、脇田剛、渡辺慈子、渡辺大起、渡邊裕介







以下の団体にご参加いただきました。

### 【なごビオ会員】

相生山緑地自然観察会、愛知守山自然の会、大高緑地湿地の会、大高竹の会、滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会、中部蜘蛛懇談会、名古屋自然観察会、名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター、NPO 法人なごや東山の森づくりの会、花水緑の会、ビオトープ・ネットワーク中部、名城大学野生動物生態研究会、名東自然倶楽部、もりづくり会議、守山リス研究会



### 【なごやの森づくりパートナーシップ連絡会会員】

水源の森と八竜湿地を守る会、NPO 法人てんぱくプレーパークの会

### 【その他の団体】

愛知県自然観察、中村公園自然観察会、名古屋自然観察学遊会、公益財団法人名古屋市みどりの協会、鶴舞公園整備運営事業共同事業体、(株)加藤建設、(株)サンゲツ、名古屋大学生物研究会、愛工大名電生物研究部



連携団体の調査地点では以下の方々にご参加いただきました。

### 【名古屋市理科教育研究会】

西城小学校 小林哲、小泉敦、小木曾琴江、永井淑貴、脇田咲紀、児童・保護者 14 人

### 【ユース】

愛知県立愛知総合工科高校 谷欣也、生徒 7 人／名城大学附属高校 吉川靖浩、三輪温子、生徒 30 人

愛知県立一宮高校 原いずみ、森谷和司、生徒 12 人

### 【他都市団体】

NPO 法人海上の森の会 青山邦彦、石川明博、源田孝、曾我部行子、田中英嗣、田中琉月、細川小百合、馬宮孝好、加藤修朗、萩野典子

NPO 法人もりの学舎自然学校 木下和弥、久村三重子、水谷央、守安悠子

二村山豊かな里山作りの会 浅野守彦、伊藤浩、伊藤美穂、伊藤祐奈、伊藤弘貴、岩堀利宜、大島初美、大島武幸、北山みね子、北村良一、北村幸代、杉本宏一、戸崎翔太、戸塚律子、服部聡士、原田秀子、古橋司宣、溝口さおり、三好善一、吉安尚久、若月徹

NPO 法人みよしの自然環境を守る会 鳥居鎌一はじめ 132 人

公益財団法人愛知県都市整備協会 大塚象児、神鳥浩一、松原誠二、馬渡康弘、吉野直彦、渡辺陽太、渡辺健太郎

岩間造園(株)・一般財団法人公園財団 鵜飼敏彦、辻泰広、野口章夫、藤本典子、二村滋、森川了平

NPO 法人犬山里山学研究所 大橋建之、高木加代子、澤木基治、滝浩史、永田幸枝、緋田祐太、日比野伸子、平野恵子、福田秀雄、舟橋きよみ、松永克幸、水谷美佐江、山本豊之

名古屋産業大学長谷川ゼミ 大濱勇人、小林奏太、酒井大輝、富田皐介、中浜輝、長谷川泰洋、山口優気、山村陽也

調査に参加いただいた市民・団体の皆様、ご協力ありがとうございました。



## なごや生きもの一斉調査2023 ～ハエトリグモ編～ 調査結果報告書

発行：なごビオ(なごや生物多様性保全活動協議会)

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地 TEL:052-831-8104 FAX:052-839-1695

監修

加藤修朗(中部蜘蛛懇談会)

板倉泰弘(中部蜘蛛懇談会)

萩野典子(中部蜘蛛懇談会)

編集

なごビオ事務局



2024年3月発行